

# 耐震診断・補強設計

(別紙－２)

## 耐震判定会に必要な書類 (ダイジェスト版)

- ・用紙は原則としてA4版又はA3版とする。

### I. 鉄筋コンクリート造

1. 耐震診断・補強設計概要書  
様式－２－５の耐震診断・補強設計概要書に必要事項を記入する。
2. 建物配置図  
建物配置図に診断対象建物をマークする。
3. 各階平面図(補強位置を記入、手書きも可)及び矩計図  
建物の平面形状が分かるようにする。
4. 各階伏図(補強前)  
柱、梁及び壁の配置が分かるようにする。
5. 各通り軸組図(補強前)  
建物の立面形状が分かるようにする。垂れ壁、腰壁及び袖壁がある場合は、壁及び開口の大きさが分かるように各寸法を記入する。
6. 断面リスト(補強前)  
基礎、柱、梁及び壁の断面、配筋が分かるようにする。
7. 方向別判定表(補強前)  
様式－６の診断表に必要事項を記入し、所見欄には耐震診断の結果を具体的に述べる。  
加力方向は最終的に決まった方向とする。(両方向も可とする)
8.  $C_T-F$  グラフ
9. 部材破壊モード図(伏図形式)(補強前)  
耐震壁及び袖壁を作図し、部材の破壊モードが分かるように、加力方向別に耐力、破壊形式、靱性指標、下階壁抜け柱及び第２種構造要素を記入する。
10. 部材破壊モード図(軸組図形式)(補強前)  
耐震壁、垂れ壁、腰壁及び袖壁を作図し、部材の破壊モードが分かるように、加力方向別に耐力、破壊形式、靱性指標、下階壁抜け柱及び第２種構造要素を記入する。
11. 塔屋階の計算(補強前)  
塔屋階の計算結果が分かるようにする。
12. 補強建物図面
  - 12－１ 標準図
  - 12－２ 各階伏図
  - 12－３ 各通り軸組図
  - 12－４ RCリスト、架構配筋図、各部配筋図
13. 耐震補強設計
  - 13－１ 方向別判定表
  - 13－２  $C_T-F$  グラフ

- 1 3 - 3 部材破壊モード図（伏図形式）
- 1 3 - 4 部材破壊モード図（軸組図形式）
- 1 3 - 5 塔屋階の補強設計
- 1 3 - 6 その他

1 4 . 耐震診断・補強設計経過議事録

様式－8の耐震診断・補強設計経過議事録に部会審査の指摘事項とその回答等を記入する。

## Ⅱ．鉄骨造（注：鉄筋コンクリートとの混構造の場合は鉄筋コンクリート造の内容も加える）

- 1．耐震診断・補強設計概要書  
様式－2－6の耐震診断・補強設計概要書に必要事項を記入する。  
ゾーニング図を添付する。
- 2．建物配置図  
建物配置図に診断対象建物をマークする。
- 3．各階平面図（補強位置を記入、手書きも可）及び矩計図  
建物の平面形状が分かるようにする。
- 4．各階伏図（補強前）  
柱、梁の配置が分かるようにする。
- 5．各通り軸組図（補強前）  
建物の立面形状が分かるようにする。
- 6．断面リスト及び鉄骨詳細図  
基礎、柱、梁、ブレースの断面及び鉄骨詳細が分かるようにする。
- 7．方向別判定表（補強前）  
梁間方向の中間フレーム・妻フレーム及び桁行方向の軸組ブレース並びに屋根ブレース等の耐力が分かるようにする。
- 8．終局時応力状態図（補強前）  
崩壊メカニズム図にヒンジの順番、強度及びF値を記入する。
- 9．補強建物図面
  - 9－1 標準図
  - 9－2 各階伏図
  - 9－3 各通り軸組図
  - 9－4 RCリスト、架構配筋図
  - 9－5 鉄骨リスト、架構詳細図
- 10．耐震補強設計
  - 10－1 方向別判定表  
補強設計を行った補強フレームの耐力が分かるようにする。
  - 10－2 終局時応力状態図  
補強フレームの崩壊メカニズム図にヒンジの順番、強度及びF値を記入する。
  - 10－3 その他  
屋根ブレース等（補強）の耐力が分かるようにする。
- 11．耐震診断・補強設計経過議事録  
様式－8の耐震診断・補強設計経過議事録に部会審査の指摘事項やその回答等を記入する。